

アール・ブリュットって？

アール・ブリュット [仏: Art Brut] とは、フランス人画家ジャン・デュビュッフ(1901-1985)が1945年頃に考案した概念です。Artは「芸術」、Brutは「磨かれていない」、「加工していない 生のままの」という意味を持ち、「**生(き)の芸術**」と表されています。**美術の専門教育を受けていない人々が独自の方法与発想により制作した芸術作品**を指しています。

欧米諸国ではアール・ブリュットを扱った数多くの展覧会が開催され、また作品の収集・保存・研究が進んでいますが、**日本のアール・ブリュット**は、近年、国内外で関心が高まり、多くの展覧会が開催されるようになりました。2010年から11年に**パリ**のアル・サン・ピエール美術館で開催されたアール・ブリュットジャポネ展では、10ヶ月で約**12万人の観客**を動員しました。また、2012年4月からオランダを皮切りに始まったヨーロッパ巡回展「Art Brut from Japan」の中、**ロンドン**のウェルカム・コレクションでの展覧会は、3ヶ月間で約**9万名の来場者**を記録するなど大変な話題となりました。2014年には、スイスにあるラガーハウスミュージアムにて日本・スイス国交樹立150周年記念事業の一環として「ART BRUT JAPAN SCHWEIZ」開催されました。

本県では2014年11月に、**出雲サンホーム**において**県内初となるアール・ブリュット展**が開催され、多くの皆さまから高い評価を受けました。

ロンドンでの展覧会では、日本のアール・ブリュットの魅力が、次のように紹介されました。

「……(本展の)作品群は、日本から来た大変興味深く、また驚くほど魅力的で洗練された現代美術であるといっても過言ではない。……**作品の魅力はその高い質**なのである。……現代美術の出世主義とは異なるのである。作品を造りたいから造るのである。美術通にしか理解できない内輪のネタで競争相手と差別化を図るのではなく、この作品たちは**純粹に「美術作品」**なのである。ここに素晴らしい解放感を覚えるのだ。……」

島根展のアートディレクター小林瑞恵は、「私たち人間には個々それぞれに宿る、目に見えない無数の可能性や力が隠されています。**アール・ブリュットは、多種多様な私たちが個々に唯一無二のユニークな存在であることの美しさを伝えてきます。**」と述べています。

